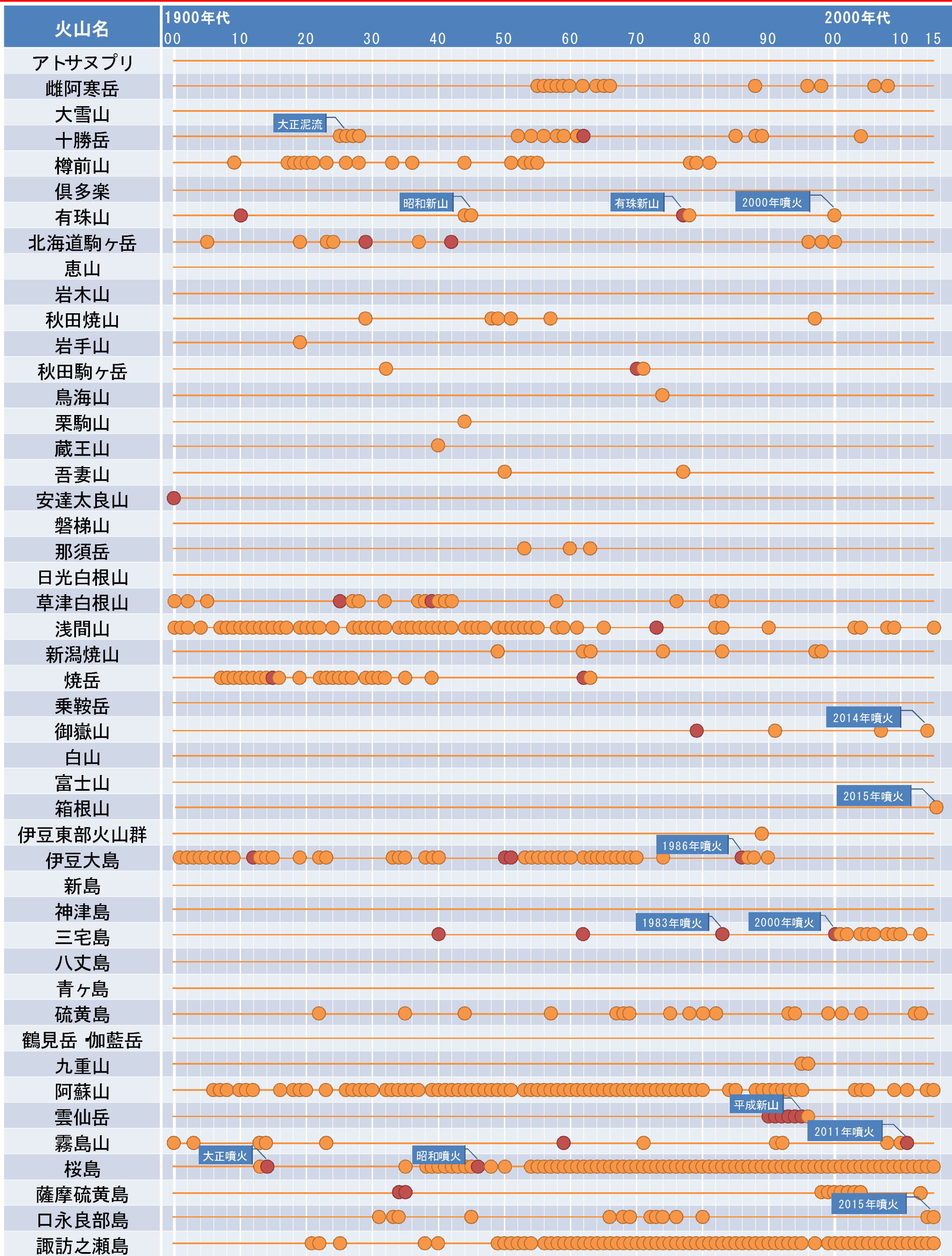


20世紀以降の47火山の活動履歴



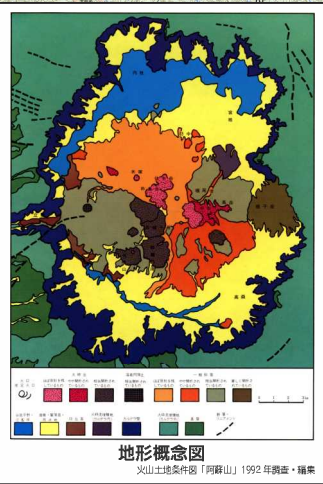
参考 (気象庁HP) ● 噴火のあった年 ● 規模の大きな噴火のあった年 企画展で紹介している主な噴火等

世界最大級のカルデラ・・・阿蘇山

阿蘇山は九州の中央部に位置し、陸上にあるカルデラ火山としては世界最大級で、東西 17km、南北 25km という巨大なカルデラと、中岳、高岳などの中央火口丘群から構成された火山です。カルデラの中には、1 市 2 町村、約 4 万人が生活し、JR 豊肥本線と南阿蘇鉄道の鉄道 2 路線が走っています。

火山としての阿蘇山の活動は、いまから約 30 万年前に始まり、約 9 万年前までの間に、4 回の大噴火がありました。大量のマグマが噴出したことによる陥没や、その後も繰り返された火砕流噴出によるカルデラの拡大、侵食によるカルデラ壁の後退などさまざまな要因が重なり、阿蘇山のカルデラが形成されました。現在は、中央火口丘群の中岳が噴火活動を続けています。

阿蘇山は、雄大な景観と合わせて、活動中の火口付近までロープウェイなどを利用して手軽に近づけることから多くの人々が訪れる一方で、過去には噴石や火山ガスで観光客が死亡する事故も起きています。こうした過去の災害を教訓に待避壕の設置、ハザードマップの整備など安全対策が図られています。



カルデラ:
噴火活動により多量のマグマを放出した後に火口付近の土地が陥没したり、火口の侵食・崩壊などによりできた直径 1 ～ 2km より大きな窪地をカルデラと呼びます。カルデラのまわりの壁をカルデラ壁、カルデラの中にできた火山を中央火口丘、火口やカルデラをとり囲む山の連なりを外輪山といいます。北海道の洞爺湖や青森県・秋田県にまたがる十和田湖のようにカルデラに水がたまってできた湖もあります。



噴煙を上げる阿蘇山

(2015年9月14日 国土地理院撮影)